

## 地域活性化委員会 活動報告書

令和元（2019）年10月24日

宇都宮商工会議所  
会頭 増 淵 正 二 様

地域活性化委員会  
委員長 村 上 芳 弘

当委員会は、平成28（2016）年度から委員会が所管する重要事項の調査・研究を進めてまいりました。

このほど、次に掲げる事項について調査・研究が終了しましたので、その活動経過と結果についてご報告いたします。

## 地域活性化委員会 委員名簿

委員長	村上 芳弘	(日東石油(株) 代表取締役)
副委員長	金柿 説生	((有)石川印刷所 代表取締役)
委員	飯村 慎一	(光陽エンジニアリング(株) 代表取締役会長)
同	喜谷 辰夫	(トヨタカローラ栃木(株) 代表取締役社長)
同	安藤 英夫	((株)安藤設計 代表取締役会長)
同	佐藤 剛	(アクサ生命保険(株)宇都宮支社 支社長)
同	酒井 誠	((株)酒井建築設計事務所 代表取締役社長)
同	加納 孝文	((株)ミツトヨ宇都宮事業所 取締役上席執行役員 宇都宮事業所長)
同	福田 宏一	((株)福田屋百貨店 代表取締役社長)
同	横倉 正一	((株)横倉本店 代表取締役社長)
同	赤塚 茂	(野村証券(株)宇都宮支店 支店長)
同	長谷部 周彦	(東日本電信電話(株)栃木支店 理事栃木支店長)
同	青木 克介	((株)アオショー 代表取締役)
同	田嶋 章夫	((株)ホテルニューイタヤ 代表取締役専務)
同	保坂 正裕	(ブリヂストンタイヤ栃木販売(株) 代表取締役社長)
同	浅利 貴志	(宇都宮ステーション開発(株) 代表取締役社長)
同	長谷川 静夫	((株)カンセキ 代表取締役会長)
同	加藤 紀夫	((株)ケイエムシー 代表取締役)
同	中村 太三郎	((株)宇都宮グランドホテル 代表取締役社長)
同	遠藤 哲也	(富士通(株)栃木支店 支店長)
同	柳田 文司	(宇都宮二荒山神社 祢宜)
同	上野 勝弘	(上陽工業(株) 代表取締役)
同	秋本 薫	((株)アキモ 代表取締役)
同	鈴木 章弘	((協)宇都宮餃子会 理事兼事務局長)
同	木内 裕祐	((株)五光宇都宮店 代表取締役)
同	高山 實	((株)太陽警備保障 代表取締役)
同	保坂 和夫	(関東交通(株) 代表取締役社長)
同	坂本 昭一	((株)新光社 代表取締役会長)
同	上野 一久	((株)パルコ宇都宮店 店長)
同	井上 加容子	((株)井上総合印刷 代表取締役)
同	熊本 勇治	(熊本(株) 代表取締役)
同	渡邊 早月	((学校法人)宇都宮メディア・アーツ専門学 理事長)

以上32名

## 目 次

I 委員会の活動経過	1
II 交流人口の増加に向けて～都市魅力創造課の取組を中心に～ 宇都宮市経済部都市魅力創造課 青木克之課長の説明要旨	4
III 「石の街うつのみやシンポジウム～大谷・大谷石・大谷石文化 未来へ～」の 要旨について	7
IV 街の魅力づくりと地域ブランドについて～いかに宇都宮の魅力を発信するか～ (株)ブランド総合研究所 田中 章雄社長の講演要旨	9
V 大谷地区現場視察（産業振興委員会との合同委員会）について	11
VI 委員からの主な意見	14
VII 「大谷地区の魅力発信」について－提案・要望－	22

## I 委員会の活動経過

### 1 正副委員長会議（平成29（2017）年2月13日）

#### (1) 内 容

ア 委員会の進め方について

イ 今後のスケジュールについて

➡ どのような調査・研究テーマが良いか意見交換を行い、佐藤市長も観光・交流の未来都市として位置づけている大谷地域の活性化を地域資源の観点からテーマにして進めることとなった。

#### (2) 出席者 2人

### 2 平成28年度第1回（平成29（2017）年2月21日）

#### (1) 内 容

ア 委員会の調査・研究事項について

イ 委員会の進め方（年間スケジュール）について

➡ 委員会の調査・研究事項について説明をした。その後、出席者から当委員会で調査・研究すべきテーマについて意見交換が行われた。

#### (2) 出席者 22人

### 3 平成29年度第1回（平成29（2017）年6月28日）

#### (1) 内 容

ア 講 話 テーマ 交流人口の増加に向けて

～ 都市魅力創造課の取組を中心に ～

イ 講話者 宇都宮市 経済部 都市魅力創造課

課長 青木 克之 氏

大谷振興室 室長 田代 丞 氏

ウ 調査・研究事項について

エ 委員会の進め方（年間スケジュール）について

➡ 今後の委員会活動の参考とするため、宇都宮市経済部都市魅力創造課の職員を招き、宇都宮の地域資源について、説明および情報提供をしていただいた。その後、調査研究テーマおよび委員会の進め方（年間スケジュール）について、意見交換を行った。

#### (2) 出席者 16人

#### 4 平成29年度第2回（平成29（2017）年11月18日）

##### (1) 内 容

ア 調査・研究事項について

イ 委員会の進め方（年間スケジュール）について

ウ 石の街うつつのみや「シンポジウム」への参加

➡ 調査研究テーマについて、委員から忌憚のない活発な意見交換が行われた。委員会終了後、全員で移動し、「石の街うつつのみや『シンポジウム』」に参加した。

(2) 出席者 16人

#### 5 平成30年度第1回（平成30（2018）年7月13日）

##### (1) 内 容

ア 平成29（2017）年度委員会活動報告について

イ 平成30（2018）年度委員会活動について

ウ 意見交換

エ 第2部 講演会（当商工会議所まちづくり委員会との合同開催）

○ テーマ：街の魅力づくりと地域ブランドについて

○ 講 師：(株)ブランド総合研究所 代表取締役 田中 章雄 氏

➡ 平成29（2017）年度委員会活動報告並びに平成30（2018）年度委員会活動について事務局から説明を行った後、委員と大谷地区について意見交換を行った。また、当商工会議所まちづくり委員会と合同で、講演会に参加した。

(2) 出席者 17人

#### 6 平成30年度第2回（平成30（2018）年11月27日）

##### (1) 内 容

ア 現場視察

○ 大谷石採取場跡地観測所（城山地区市民センター 隣接）

○ 地下水を利用した保冷倉庫実証実験場（(株)屏風岩 敷地内）

○ 大谷いちご栽培圃場（大谷いちご倶楽部 敷地内）

○ 大谷石採掘場（(有)北戸室石下石材店 敷地内）

○ 大谷公園・市営大谷駐車場

➡ 当商工会議所産業振興委員会と合同で、大谷地区の現場を視察することで、「観光」や「産業」の切り口で大谷地区の活性化の可能性等について調査研究することを目的に5ヶ所を現場視察した。

(2) 出席者 18人

## 7 令和元年度第1回（令和元（2019）年10月3日）

(1) 内 容

ア 地域活性化委員会活動報告書（案）について

イ 意見交換

➡ 地域活性化委員会活動報告書(案)について事務局から説明を行った後、活動報告書（案）について意見交換を行った。

(2) 出席者 15人

## II 交流人口の増加に向けて～都市魅力創造課の取組を中心に～ 宇都宮市経済部都市魅力創造課 青木克之課長の説明要旨

(平成29(2017)年6月28日 宇都宮グランドホテル於いて)

### 1 概要

- (1) 宇都宮市の経済活性化には、産業の振興（農業・商業・工業の活性化）に加え、「交流人口の増加」が不可欠。
- (2) 交流人口を増加させていくためには、「シビックプライドの醸成」「シティブランドの向上」「観光の振興」に取り組んでいく必要がある。
- (3) シビックプライド、シティブランド、観光に資する「都市の魅力」に係る企画立案、事業実施、総合調整機能を強化するために、経済部内に「都市魅力創造課」を新たに設置するとともに、文化振興や景観整形等を含めた大谷の振興を図り、観光拠点としての魅力を高めるため、課内に「大谷振興室」を設置。

### 2 都市魅力創造課の主な取り組み

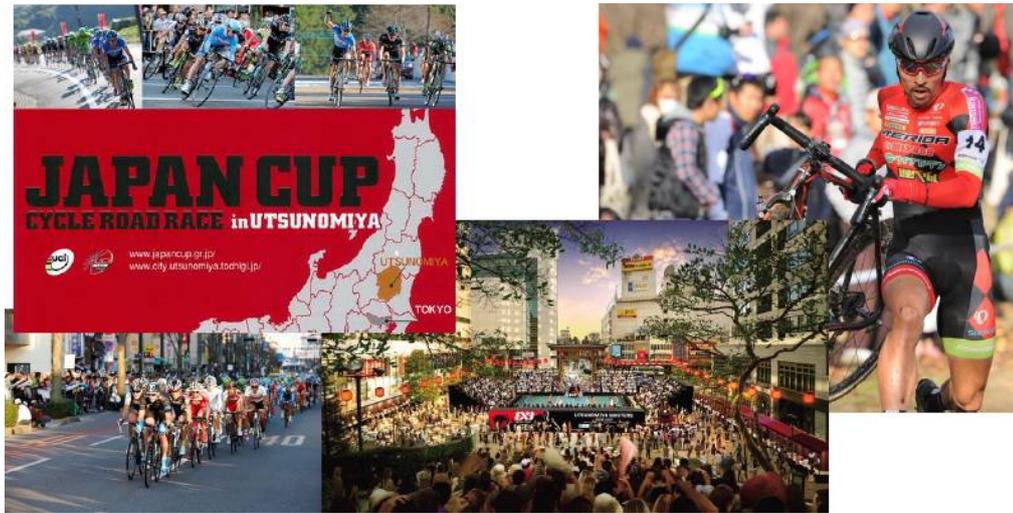
#### (1) プロスポーツチーム連携・支援

- プロスポーツチームは、「経済的」「社会的」「教育的」効果をもたらすなど、魅力的資源。



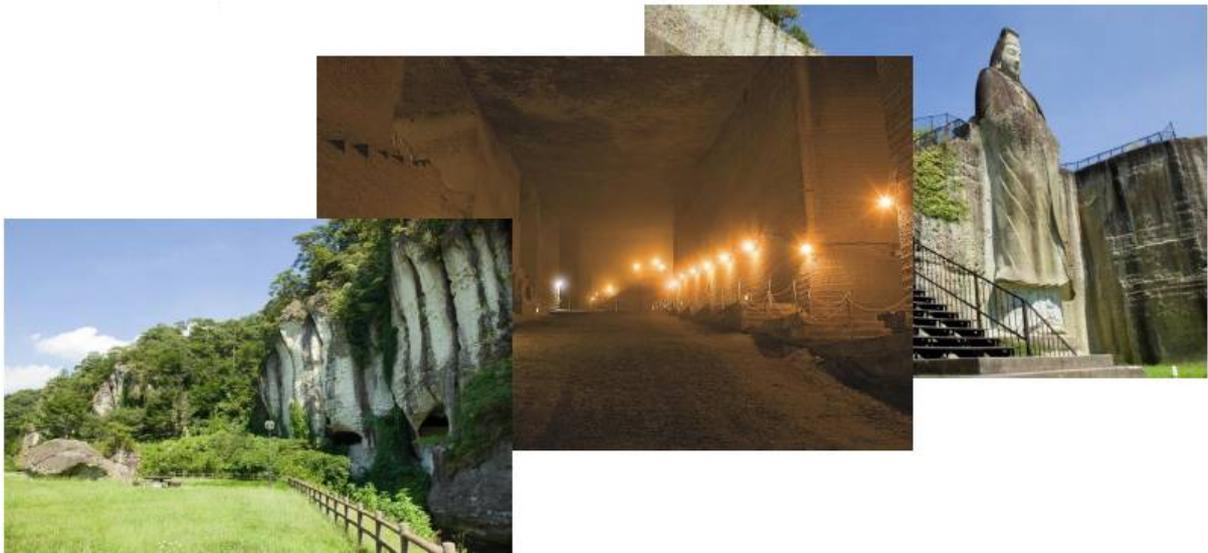
#### (2) 国際的なスポーツイベントの開催

- ジャパンカップサイクルロードレース、3 x 3ワールドツアーマスターズなどの国際的なスポーツイベントは、宇都宮市のPR、イメージアップ、経済の活性化、スポーツの振興、スポーツを通じた国際交流の推進、宇都宮市の観光資源・誘致促進に寄与。



### (3) 大谷周辺地域の振興

- 大谷周辺地域は、古くから大谷石を中心とした地場産業があり続け、自然と人間の営みによって形成された特異な景観を有し、本市の観光拠点として賑わいをみせていたが、陥没事故や東日本大震災の影響により活力が低下。近年、地域をはじめ関係者の継続的な努力により少しずつではあるが活力が回復している。この流れを加速化させるために、大谷周辺地域の資源を最大限に活用し、総合的な振興に取り組む。



### 3 大谷周辺地域の振興

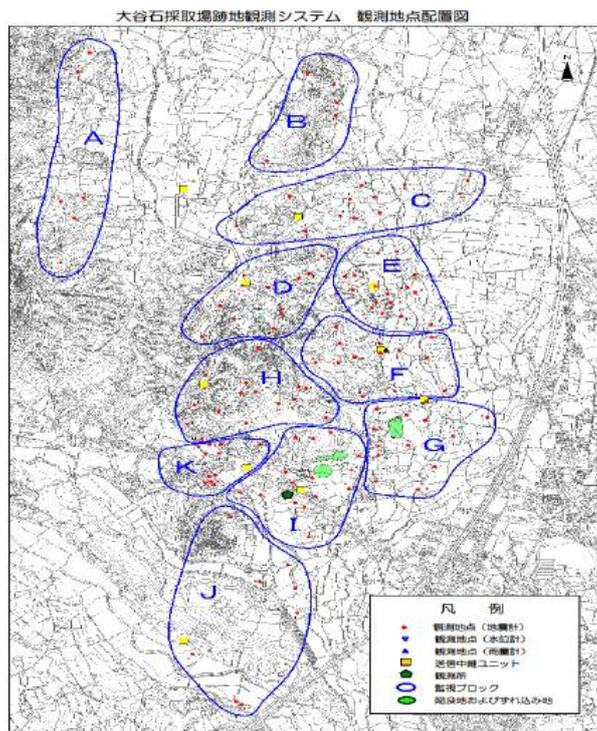
#### (1) 大谷地区の安全対策

##### ア 観測システムの整備

- 平成2（1990年）年から、大谷石採取場跡地が存在する東西約3 km、南北約5.5 kmの観測区域に、現在97箇所の地震計を設け、地下の変動を常時観測

##### イ 観測システムの概要

- 地震計で地下空洞の天盤、壁面、残柱等に生じる岩片剥離や亀裂、崩落に伴って発生する振動を観測し・分析することにより、地下の状況を把握し、地下の変動を事前に予測する。



#### (2) 新たな取組の展開へ

- 「安全対策」を前提として、「大谷石採取場跡地」の活用を軸とした「持続可能な地域振興」を実施。

#### (3) 資源を観光に活用

- 大谷石産業の衰退とともに、採取場跡地内の多くに水が貯留されている空間を「地底湖」と捉えて、体験型観光事業を検討・調査し、民間事業者が主体となり地底湖クルーズツアーを実施。



#### (4) 資源を農業に活用

- 採取場跡地内に貯留されている水が年間を通じて冷たいことから、「冷熱エネルギー」と捉え、平成25年度「大谷夏いちご研究会」を組織し、宇都宮大学等と連携し、貯留水を利用したクラウン冷却システムによる夏秋いちご栽培の事業化に向けた実証実験を開始。現在は、あまり国産イチゴが出回らない、夏から秋に採れるため市場価値が高く、需要が増えている。

### Ⅲ 「石の街うつのみやシンポジウム～大谷・大谷石・大谷石文化 未来へ～」の 要旨について

(平成29(2017)年11月18日 宇都宮市城山地区市民センターに於いて)

- 1 「なぜ、旧帝国ホテルに大谷石が使われたのか、凝灰岩の中の大谷石の存在」  
橋本優子氏 (宇都宮美術館 主任学芸員)
  - アメリカの建築家フランク・ロイド・ライトが手がけ、日本に現存する希少な作品であるため、「旧・帝国ホテル・ライト館」は、「宇都宮の大谷石」を国内外に知らしめた最も重要な建造物に他ならない。
  - 設計した建築家のフランク・ロイド・ライトは柔らかくて軽い凝灰岩としての特性に着目した。日本の近代建築に大きな影響を与えた。



旧・帝国ホテル・ライト館

- 2 「暮らし・生業・産業からみた大谷石の建物とその風景」  
安森亮雄氏 (宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科 准教授)
  - 大谷石の蔵の町並みとくらしとしては、大谷石の建物が密集する集落が存在する徳次郎町西根地区、上田原は、旧街道に沿って石蔵と石塀が連続し、他では見ることのできない特徴的な石の町並みが形成され、清住町通り（中心市街地）にも多くの石蔵が現存し、地域の暮らしや生業の中で、密度の高い大谷石の建物群が形成されている。



徳次郎町西根地区の町並み

- 大谷石の各種建築と産業において、宇都宮では酒造会社、味噌製造会社等の醸造庫や貯蔵庫に、染物工場では、生地貯蔵庫と文庫蔵に石蔵が使われ、行田では、重厚な防火扉、防火窓を備えた石蔵は、足袋底製品の貯蔵用の出荷蔵として使用されていた。

### 3 「大谷石採掘の歴史、石材としての隆盛、今後の展望」

石下光良氏（大谷石材協同組合 代表理事）

- 昭和34年（1959年）に全採石場が機械化され、手掘りによる生産量の限界を切り開き、機械掘りによる生産拡大は、昭和48年（1975年）に生産量のピークを迎える。オイルショックにより、昭和51年（1976年）から激減し、石塀、門柱、石造倉庫の需要が建築基準法の規制強化により、建築構造物としての需要は激減し、現在建材として大谷石を薄く加工した貼石が主な需要となっている。
- 建築以外の新たな大谷石の利活用として、現在、土木・建築材は新しい商品が次々と開発され多様化しており、建築以外の新たな用途が広がっている。

### 4 「産業としての大谷、観光としての大谷の限りない可能性」

黒崎泰広氏（宇都宮市都市魅力創造課大谷振興室 係長）

- 平成24年（2012年）には県内企業と連携し、「地底湖クルーズツアー」を商品化し、採取場跡地など特異な地域資源をフル活用している。



地底湖クルーズ

- 農業や環境の分野において、耕作放棄地を再生しながら、採取場跡地の地下貯留水の冷熱を活用し、「大谷夏いちご」を栽培し、沖縄の高級リゾートホテルと取り引きを行っている。



大谷夏いちご

#### IV 街の魅力づくりと地域ブランドについて ～いかに宇都宮の魅力を発信するのか～ 株式会社ブランド総合研究所 田中 章雄社長の講演要旨

(平成30(2018)年7月13日 ホテルニューイタヤに於いて)

##### 1 どうテーマを探すか

- (1) ブランド総合研究所がインターネット調査を用いて認知度、魅力度、居住意欲度、観光意欲度、地域資源に対する評価など計78項目を分析した「地域ブランド調査」を参考にする。

宇都宮市の強み	宇都宮市の課題
<input type="radio"/> 認知度が高い	<input type="radio"/> 魅力が伝わっていない
<input type="radio"/> 食の魅力が高い	<input type="radio"/> 半数は名前しか知らない
<input type="radio"/> 若い世代からの評価が高い	<input type="radio"/> 住みやすさが、居住意欲につながっていない
<input type="radio"/> 交通が便利	

- (2) 全国初や日本一、宇都宮オンリーワン、ギネスに挑戦など宇都宮の魅力を発見する。

[参考事例]

- 鳥取県鳥取市で1,688人による世界最大の傘踊り (ギネス認定)
- 群馬県太田市でやきそばの列で世界一 記録 3,720皿 (ギネス認定) など

- (3) メディアの関心を惹きつけることが期待できるようなテーマであること。

- 世界一、日本一、話題性 など

- (4) 宇都宮の魅力を全国に発信、拡散していけるようなテーマであること。

- 餃子、カクテル、大谷石 など

- (5) みんなが楽しいと思えるテーマであること。

- 歩いて楽しい街 など

##### 2 どう魅力をつくるか

- (1) 宇都宮の各種地域資源を新たな視点で、活用またはコラボさせるか。

- (2) いかに訪問したいという機会を作るか。

- (3) 宇都宮のファンをいかに増やすか。

### 3 どう魅力を発信するか

- (1) 市民自らが語り部となって魅力情報を外に向けて発信するインターナル・ブランディングを行う。
- (2) 先ずどんなことでも良いので行動を起こす。
- (3) 当事者自らが情報発信する・(SNSを含む)
- (4) メディアに動きを伝える。
- (5) 宇都宮の魅力情報として市民に伝える。
- (6) 市民のやる気を加速させる。



- 国内外に「やる気」が伝わる。
- ヒト・モノ・カネが集まり始まる。

## V 大谷地区現場視察（産業振興委員会との合同委員会）について

（平成30（2018）年11月27日 宇都宮市経済部同行・説明）

### 1 視察地：大谷石採取場跡地観測所（城山地区市民センター隣接）

内容

- (1) 大谷地区における観光・産業の数字に以下がある。
  - ア 観光客の推移  
最盛期（昭和56年）120万人  
→ 17万人（平成23年東日本大震災時）
  - イ 採石業者数  
最盛期（昭和40年代）120社 → 現在7社
  - ウ 大谷石出荷量  
最盛期（昭和40年代）80万t → 現在1.6万t
- (2) 平成2年の坂本地区の陥没をきっかけに、観測所が設置。  
現在、97地点で観測。
- (3) 大谷地区を11ブロック（A～K地点）に分け、地区ごとに観測計を設置。  
最終的に大谷石採取所跡地観測所にデータが集約される。
- (4) 当観測所は、過去のデータから今後の陥没や地震などの予測・予知をする施設ではない。振動の観測は行うが、振動があるからといって必ずしも陥没するわけでもなく、当観測所が独自に、「〇〇地区が今後陥没する」など判断することはできない（他の理由として、行政からの委託の中で観測をしているに過ぎず、予測・予知までの権限はない）。

### 2 視察地：大谷石採掘場（有北戸室石下石材店様 敷地内）

内容

現在も大谷石を採掘している採掘場（深さ60メートルの縦穴）を見学

### 3 視察地：大谷夏いちご栽培圃場（株ロック・ベリー・ファーム様）

内容

- (1) 宮城県の手法を取り入れ、いちごの「クラウン（茎）」を冷却することで、夏であっても冬と勘違いさせることにより栽培をしている。ただし、宮城県は井戸水をヒートポンプで冷やすのに対し、本圃場では（大谷の）地下水の冷熱を利用し、クラウンを冷却している。
- (2) 6月～11月に市場に出回るいちごは、ほぼ外国産であり、国内の洋菓子屋は外国産を避ける傾向がある。

- (3) 大谷の夏いちごについて、東京進出を検討したが、東京における「大谷」の知名度が低かったため、進出することができず、断念せざるを得なかった。しかし、その後、沖縄県のホテルや洋菓子店からの需要があり、現在は沖縄県への出荷も行っている。また、本年（平成30(2018)年）10月には伊勢神宮に大谷の夏いちごを奉納することができた。
- (4) 大谷の夏いちごは、他の夏いちごと比較し若干値段が高い。
- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| ア 夏いちご（大谷地区以外） | 1 kgあたり 1, 900円 |
| イ 夏いちご（大谷地区）   | 1 kgあたり 2, 500円 |

#### 4 視察地：保冷倉庫実証実験場（株屏風岩様 敷地内）

##### 内容

- (1) 地下約40メートルにある約9℃の地下水を地上へ汲み上げ、「熱交換機」に通すことにより水の冷気を保冷庫に流す。  
→ 本年（平成30(2018)年）9月に実証実験が終了となり、現在冷熱エネルギーに関する企業誘致をしているところである。
- (2) 本実証実験による冷熱エネルギーは、輻射冷却の効果によりじんわりと冷やすことができ、また湿度を60～80%で一定に保つことが可能なため、大谷の地下の環境を再現することも可能である。

#### 5 視察地 大谷公園・市営大谷駐車場

##### 内容

- (1) 大谷公園内（参道）に、活用されていない及び視認しにくい「針供養塔」及び「投石子育延命地藏尊」を見学（立ち入り禁止区域のため、参道からの見物）
- (2) 市営大谷駐車場－大谷公園間の横断歩道に信号機がなく、非常に通行車両の見通しが悪い など

6 写真



大谷石採取場跡地観測所



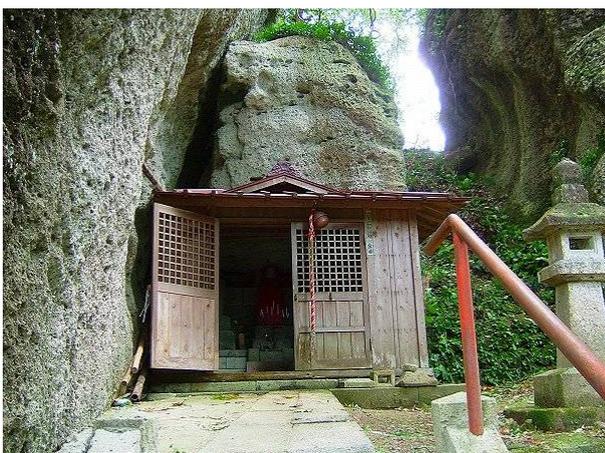
大谷石採掘場 (有)北戸室石下石材店)



大谷夏いちご栽培圃場 (株)ロック・ベリー・ファーム)



保冷倉庫実証実験場



大谷公園参道脇 投石子育延命地藏尊



大谷公園参道脇 針供養塔

## VI 委員からの主な意見

### 1 平成28年度第1回委員会（平成29（2017）年2月21日）

#### (1) 大谷地域についての意見

- ア 前回までの委員会報告書を見ると、幅が広すぎて何をしていたか分からないように感じる。“誰が”“何”にターゲットを絞ったほうが良い。宇都宮市も大谷地区の観光振興を掲げていることから、大谷の魅力を発掘することは良い。
- イ コンテンツは多く挙げられるが、そのコンテンツを用いた“商品”がない。大谷地区だけでも、“大谷資料館”、“大谷石細工体験”など各コンテンツでの取り組みはあるが、大谷地区をバスや自転車で巡って一日中過ごせるような“各コンテンツが連携した商品”がない。
- ウ 大谷が注目されているが、曖昧な情報しか入ってこない現状である。まずは一度、大谷地区の魅力（景観や食など）というものを整理し、発信する必要がある。また、宇都宮駅から大谷までの“移動手段”や“宿泊先”も考慮する必要がある。

#### (2) 宇都宮についての意見

- ア 大谷の地底湖など新たな地域資源が見つまっていることから、現在の宇都宮の地域資源を見直し、新たな地域資源を発掘することに焦点を絞ってはどうか。
- イ 宇都宮は様々なイベントや資源を有しているが、ありすぎて何に注目して良いのかが分からない。新たな地域資源の発掘というよりも、今ある地域資源をいかに分かりやすく、どのようにすれば市外県外から来てもらえるかに注力した方が良い。
- ウ “自転車”に絞って宇都宮の市外県外よりも有利な部分をさらに強化してはどうか。
- エ 宇都宮は“おもてなしの街”であることを発信したい。おもてなしを推進する街として、市民一人一人が“おもてなしの心”を大切にするひとづくりが大切。また、宇都宮駅の近くに観光名所が無いことから、かつて“宮の橋”にて屋形船を宮まつりに合わせて浮かべるイベントがあったように、宮の橋下にベンチやボートなど、そこで食事をとれるような物を設置し、新たな観光名所にしてはどうか。

#### (3) 観光についての意見

- ア デステネーションキャンペーンに通じ、県外観光客を呼び込む観光策を考えてはどうか。

イ インバンドについて、栃木県では2015年に外国人観光客が約2倍とのことだが、体感としては、そのほとんどが日光へ訪れている。その影響かJR宇都宮駅に降りる外国人は多いが、そのまま新幹線に乗り換えて日光へ向かってしまう。

また、インバンドに合わせて他言語看板（スマホをかざすと翻訳が表示される仕組みなど）やバス停を整備するなど、日光へ向かう外国人観光客を宇都宮に呼び止める施策を考えてはどうか。

ウ 現在、宇都宮は岡山や仙台のように、観光客を呼ぶ街とまでは至っていないように思う。餃子やイベントなど昼間に楽しむコンテンツは多々あるが、夜まで楽しんでいただける“メニュー”や“企画”が必要と感じる。

また、大谷に関してもグランピングの実施検証など行っているが、昼間のコンテンツばかりになっており、夜まで過ごせるコンテンツが必要ではないか。

#### (4) イベントについての意見

ア 夜滞在してもらえる施策や資源が必要。しかし、二荒山神社付近（バンバ広場）にて夜のイベントを提案したが、近隣住民からの反対が強い。

#### (5) 今後の進め方についての意見

ア “地域の活性化”とするには、経済的にプラスとならなければ意味がない。やはり市外県外客にカネを落とさせていただくことが重要である。また、委員会の3つのテーマでバラバラに何かを取り組むのではなく、3つのテーマを併せて何か取り組みを考えられないか。

イ 地域活性化において忘れてはいけないことは“誰”をターゲットとするかであり、ここが曖昧だと何をやろうにも目的が分からなくなってしまう。また、現在の宇都宮のイベントは大通りを通行止めにするなど、大掛かり且つ普段人通りの少ない通りにも多くの来場者が訪れているが、ほとんどの来場者が栃木近郊の人々であり、市外・県外客が少ない。今後は外に向けてのPRが重要である。

## 2 平成29年度第1回委員会（平成29（2017）年6月28日）

### (1) 大谷地区についての意見

ア 当社では大谷の地下空間を利用し、山形の日本酒を貯蔵している。長期間の保管となると湿気の問題でラベルにカビが発生してしまうが、今後は地元の日本酒を貯蔵していくことを検討している。大谷で貯蔵したというストーリーが付加価値を生む。

- ⇒ 宇都宮市都市魅力創造課  
大谷の地下の冷水を壁面や床に通らせ、湿度コントロールの実験をしている。
- イ 大谷地区は、産学官連携や宇都宮駅からのルート、地元のやる気があれば、さらに成長が見込まれると思う。プロスポーツによる経済効果はあるが、一つひとつは素晴らしいが、一時的である。それらを繋げて継続的に来街するような仕組みが必要である。
- ⇒ 宇都宮市都市魅力創造課  
ジャパンカップサイクルロードレースは聖地化されており、そのような素材を活用していきたい。
- ウ 昼だけ、夜だけ、イベントだけ、というのを、24時間365日に繋げる。大谷地区は素晴らしいコンテンツだと思う。宇都宮市が考えている妄想を実現したい。
- エ 大谷地区は人間関係が難しいという噂を良く耳にするが。
- ⇒ 宇都宮市都市魅力創造課  
大谷は宇都宮の財産であり、行政がリードしていくために、今年度、市役所に大谷振興室を設置しました。
- オ 大谷は「陥没→危険」というイメージが根強くあり、大谷地区を活性化するためには、宇都宮市による安全宣言が有効である。
- ⇒ 宇都宮市都市魅力創造課  
現在、震度計を設置し監視を続けている。震度があるのは、年1回程度。安全宣言は難しいが、安定はしている。
- カ 陥没しそうなところと、しないところを地元の人には経験や感覚で知っている。代々、引き継がれているようだ。
- キ 大谷資料館というと、「セーラー服と機関銃」の撮影地、デザイナー・山本寛斎氏によるファッションショー、芸術家のアンディ・ウォーホル展などが思い浮かぶ。現在実験をしている「夏いちご」の生産者とは知り合いなので、何かきっかけをつくることはできる。大谷の自然は大切であり、グランピングという発想もおもしろいが、自然を大切に、共生することが重要である。
- ク 最近、大谷資料館は、愛のパワースポット「愛の泉」を売り出しており、年々若いカップルが訪れている。そういう仕掛けを、いかに発信していくかが重要である。

## (2) 宇都宮のPRについての意見

- ア 転勤族で出身は仙台、前任地は山形であった。始めて宇都宮に来た時、餃子しかイメージがなかった。来てみたらカクテルバーが充実し、生演奏

のジャズが聴けるのは珍しいと感じた。また、災害も少なく、利便性もあり、定年後は定住しても良い。バスケットの田臥選手は、東北の人間にとって「神」であるが、宇都宮に居ることを知らない人が多い。来るまで知らなかった、外部に居ると知らないというのは、PR方法に課題があるのではないかと思う。大谷地区も芸能人がPV撮影と、ドラマ、映画の撮影も行われている。大いにPRすべきではないだろうか

イ 外部から見た宇都宮を知らないし、宇都宮に住んでいても知らないことが多い。今の子どもは、大谷のことをほとんど知らない。大谷に土地を購入したので、宇都宮市が考える妄想に加わりたい。実現できるカードを持っている一人として妄想を現実のものにしたい。

### (3) 今後の進め方についての意見

ア 今回の委員会では、中身の濃い意見交換ができた。前回（2月21日開催）と今回で、「大谷」というキーワードが多く出た。また、「宿泊」というキーワードも見え隠れしている。その辺を勘案し、次回以降の委員会に繋げていきたい。

## 3 平成29年第2回委員会（平成29（2017）年11月18日）

### (1) 大谷地区のPRについての意見

ア 大谷資料館周辺の駐車場等のインフラ整備が必要である。また滞在させるための仕掛けづくりも必要である。リンク栃木ブレックスの田臥選手を広告塔にしてみてもいいか。

イ 大谷の各所をめぐるような仕掛け（スタンプラリー等）と、その案内板があると良い。

ウ 大谷地区に近々飲食店ができる予定となっているが、PR不足である。宇都宮は全体的にまだまだPR不足であり、せっかくのコンテンツを生かすべくPRが必要である。

### (2) 宇都宮のPRについての意見

ア 宇都宮に住んでいても知らないことが多すぎる。外部の人から聞いて初めて知ることもある。もっと地元のPRをするとともに、われわれ自身が郷土を勉強しなければならない。

イ 仕事等で県外に行くことが多いが、宇都宮の印象は何と言っても「餃子」である。その次にどうするかという議論の中ではやはり「大谷」は良い資源であると感じている。自転車の街としても宇都宮はPRしているので、大谷と自転車のコラボで、例えば大谷の鉄道軌道後を、自転車優先道路にしてみてもいいか。

### (3) 今後の進め方についての意見

ア さまざまなコンテンツはあるが、知らないことが多すぎると感じている。下野新聞の「オレたち転勤族」のコーナーに出ているような、転勤族の方々の意見も参考にしてみてもいいか。また、やはり提言だけで終わらせるのではなく、実施に結び付けていくべきだと思う。さらに、宇都宮にはプロスポーツが3チームあり、全国的にも珍しいので、上手く活用すべきである。

イ 今、宇都宮の中心部では各所でイルミネーションが行われているが、こういうものも、もう少し派手に展開し、日本3大イルミネーションとか…もっと目立つ仕掛けが必要である（例えば足利のフラワーパークなど）。また大谷の歴史については、現在の子どもたちは知らない。宇都宮のオリジナルルールで教科書に歴史を入れ、代々、子どもたちに伝えていくべきである。

ウ 以前大谷は、子どもたちの遠足等でにぎわっていた。今後インフラ整備等は必要だが、また小学校や中学校で遠足に来ていただけるような仕掛けづくりが必要である。

## 4 平成30年度第1回委員会（平成30（2018）年7月31日）

### (1) 大谷地区についての意見

ア 大谷の景観は素晴らしい。観光客が長時間滞在するにはどうすればいいか検討してはどうか。

イ 大谷街道をきれいに整備することを検討してはどうか。

### (2) 大谷地区のPRについての意見

ア ICT（情報通信技術）を活用し、スマートホンで大谷地区を案内できるようにしてはどうか。

イ 宇都宮市は首都圏から近いので、大谷方面に行ってもらおうようPRを図ってはどうか。

ウ 大谷地区までの交通手段を明確にしてはどうか。宇都宮は住みやすい良い街なので、大谷地区がぼやけてしまうのではないか、大谷地区をわかりやすくPRしてはどうか。

### (3) 宇都宮のPRについての意見

ア 宇都宮には何でもある。私は埼玉県の大宮出身であるが大宮は何もない。宇都宮は観光地や自然があることから、宇都宮をもっとPRしてはどうか。

#### (4) 今後の進め方についての意見

- ア 集客性の飲食などを含めて「食べて泊まって」など、キーワードの絞り込みを行うことが大切である。
- イ 小さい頃は太谷に行った。宇都宮の観光として、太谷観音が魅力であると言われているので活用してはどうか。旧帝国ホテル本館に太谷石が使用されていたことから、太谷石をテーマにその魅力について検討してはどうか。
- ウ 日本遺産に登録されたことで、平日でも太谷には来訪客が多い。昼には食べる場所が少ないので、来訪客の滞在時間が短い。太谷寺を中心ではなく、広い範囲で回遊性のルートを検討しどうか。

### 5 平成30年度第2回委員会（平成30（2018）年11月27日）

#### (1) 太谷石採取場跡地観測所などの現場視察後の意見

##### ア PRについて

- (ア) 今回見学した視察先は初めて見た。宇都宮市は都心から近いので、本日視察した箇所・内容を積極的にPRしてはどうか。

##### イ 観光について

- (イ) 太谷街道の道路整備（美化も含む）をすることが大切である。
- (ロ) 観光の面で言うと、陥没後衰退していたが、近年のがんばり（DCや日本遺産など）で、土日は人が出ているようである。しかしながら、飲食店や物販店がなく、滞留がないように思われる。
- (ハ) 今回の視察で「子育延命地藏尊」と「針供養塔」の存在を初めて知った。おそらく、あそこに眠っていることは一般的に知られていないと思われる。他にもそのような資源があるのかもしれない。資源は活用してこそ資源である。これらも太谷の観光資源の一つに加えるべきである（少しでも滞留時間が延ばせるのではないか）。
- (ニ) 太谷の観光資源のスポットが点々と存在している。レンタサイクルなど、それをつなぐ何かが必要である。

### 6 令和元年度第1回委員会（令和元（2019）年10月3日）

#### (1) 太谷の魅力の伝え方について

- ア 太谷には魅力が点在していることから、電動自転車のイーバイクを活用して、太谷の自然の魅力を伝え、立ち寄ってもらえる観光コンテンツ作りが大切であると思われる。
- イ 太谷のロケーション全体が素晴らしい。太谷の魅力のあるところを回遊できる地図を作り、太谷の情報を発信することで魅力が上がると思われる。

ウ 宇都宮市では誰に観光に来てほしいのか設定されていない。例えば、都内に住む30代女性や50代夫婦など設定し、顧客目線の情報を発信し認知させることが大切である。

エ 日光に行く方は、宇都宮で新幹線から在来線に乗り換えて行ってしまう。特に、海外の方を宇都宮にどう滞在させるかが大切であり課題であると思われる。

海外の方は宇都宮に来る前に情報を検索し確認してくると思われるので、情報を発信することが大切であると思われる

オ 大谷はコンテンツが豊富である。県外の知人にSNSで大谷について情報を発信すると、大変人気がある、発信の仕方が重要であると思われる。

大谷寺から大谷資料館までの道のりで安全面が整備されていないと感じた。安全面について整備していただき、回遊するルートを発信し、そのための手段を整備することが大切である。

## (2) 大谷の回遊について

ア 自転車に興味のない方に、自転車に興味をもたせるきっかけづくりをしてはどうか。宇都宮市内は自転車道が整備されているが、途中で切れて周回できないので、大谷地区を自転車で周回できるようにしてほしい。

銭洗観音があることは知らなかった。観光資源についてインフォメーションを行い、パワースポットなど大谷地区の魅力について情報を発信してはどうか。

## (3) 大谷の観光について

ア 大谷周辺にある若山農場などの観光資源を、有機的に結びけることが大切ではないか。

イ 宇都宮は餃子が有名であり、餃子を食べに来た方を、大谷までつなぐことが大切である。大谷までのアクセスで、車で来る方が多いと思うので駐車場の整備について触れてもよいのではないか。

大谷までは車やバスで来てもらい、自転車で大谷を楽しんでもらうこともよいと思う。

ウ 大谷資料館を観て感動したので、本社の役員が来たときは案内している。大谷は魅力のある土地と思っている。県内の方で地底湖クルーズを知っている方は少ないと思うので、アピールすることが大切である。

大谷資料館や大谷寺など歩いていくのは大変なので、自転車で周回することは非常に良いと思う。貸し出す自転車は、若い方にはロードバイクタイプを用意し、お年寄りの方には電動自転車を用意することを検討してはどうか。

エ 宇都宮に来て、50代・40代・30代の方が餃子を食べた後に行きたいところは別々であると思う。県外の方に対しいくつかのプランを設定した、観光マップを作成してはどうか。

オ 長期的に10年・20年後を見据えて、車を大谷地区の手前で入れないようにし、大きな駐車場を整備し、車の乗り入れを禁止する。外国人をターゲットにバンガローやキャンプ場を整備するなど、レンタサイクルで大谷を周回できるようにし、自然を楽しめるような観光地にしてはどうか。

#### (4) その他の意見について

ア 具体的に数値を入れてはどうか。明確になるので、具体性のある提言になると思う。

イ 皆さまの意見を聞いたところ、実現可能な要望内容と、将来的な要望内容のふたつにまとめることができると思われる。

インバウンドを見据えた案内板の設置を検討し、商工会議所で作成し寄贈という案もある。

ウ 大谷が今後開発されるなかで、自然を残しながら景観を整備することが大切である。

## **Ⅶ 「大谷地区の魅力発信」について－提案・要望－**

以下の項目について提案・要望をしますので、商工会議所が行政や関係機関と連携を密にしながら、「大谷地区の魅力発信」の実現に向けて取り組んでいただきたい。

### **1 大谷街道の自転車専用通行帯の整備推進**

大谷地区では毎年、ジャパンカップサイクルロードレースが開催され、普段からサイクリングを楽しむ方が多く訪れており、安全面での整備が必要であることから、大谷街道（宮環・駒生陸橋 2001～森林公園入口）において、自転車専用通行帯の整備推進に向けて調査研究を進めるよう行政への働きかけをお願いしたい。

### **2 観光資源の再活用の検討（投石子育延命地藏尊・針供養塔・銭洗観音）**

平成30（2018）年5月24日に、「大谷石文化」をテーマとしたストーリーが日本遺産に認定されたことから、さらなる観光活性化や地域振興に結びつけるため、地元商店街や自治会、行政と連携を図り、観光資源の再活用に向けての検討及び誘導案内板設置の検討をお願いしたい。

### **3 自転車を利用した回遊性の向上**

本市では、「自転車のまちうつのみや」の実現に向けて、自転車で楽しむためのイベントやサポート施設の整備など諸事業に取り組んでいることから、石の町として栄えた大谷町の散策と、周辺の観光拠点との回遊性の向上を図るため、年代別に利用しやすいレンタサイクル（ロードバイク・電動自転車など）の導入に向けて、市や関係機関等とともに調査研究を進めていただきたい。